

第3章 二つの世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と帝国日本
2 パリ講和会議と東アジアの独立運動 (p. 98~99)

パリ講和会議と国際連盟

- 1918年 [] 側が勝利
- 第一次世界大戦の特徴
 - 国力をすべて戦争に投入し、国民に戦争協力を求める [] 体制
 - 新兵器（戦車、飛行機、潜水艦など）による多大な犠牲
 - 戦後、国際平和への世論高まる
- 1919年 []
 - アメリカ大統領 [] の14か条の平和原則が背景
 - 連合国による第一次世界大戦の戦後処理
 - 日本首席全権：首相の []
- パリ講和会議の内容
 - (1) 1919年 [] 調印
 - ドイツ…植民地放棄、巨額の賠償金
 - 日本…山東省の旧ドイツ権益継承、旧ドイツ領南洋諸島の [] 権獲得
 - (2) 1920年 [] 創設
 - イギリス、フランス、イタリア、日本は [] に [] などの大国は不参加

アジアに広がる民族独立運動

- 大戦後、[] の考えに基づきナショナリズム高まる
- 1919年 []
 - 朝鮮における日本からの独立運動
 - 日本は武断政治を緩和
 - 朝鮮総督の文・武官併用制へ
 - ※実際に朝鮮総督になった文官はいない
- 1919年 []
 - 中国におけるヴェルサイユ条約抗議運動
 - 二十一か条の要求の破棄、山東省権益の返還を要求
 - 中国は講和条約調印を拒否
- 帝国主義からの解放をめざす動き
 - アジア各地に広がる
 - インド：イギリス支配に対し、ガンディーによる非暴力・不服従運動